

1. 日 時 令和7年9月9日(火) 14:30～16:05

2. 開催場所 仙台市役所本庁舎8階 第五委員会室

3. 出席委員名(敬称略)

役職	氏名	出欠
会 長（東北学院大学 教授）	篠崎 剛	○
副会長（仙台大学 准教授）	弓田 恵里香	○
委 員（アイスリンク仙台 専属インストラクター）	阿部 奈々美	○
委 員（東北福祉大学 准教授）	石森 真由子	×
委 員（仙台市議会議員）	猪又 隆広	○
委 員（東北学院大学 教授）	岡崎 勘造	×
委 員（仙台市小学校教育研究会体育研究部会 常任委員）	岡本 美佳	×
委 員（仙台市学区民体育振興会連合会 会長）	尾地 浩	○
委 員（仙台市レクリエーション協会 会長）	小池 和幸	○
委 員（仙台市スポーツ協会 副会長）	小林 智美雄	×
委 員（仙台市スポーツ推進委員協議会 常任理事）	佐藤 園子	○
委 員（仙台市スポーツ少年団 副本部長）	高橋 優勝	×
委 員（東北電力株式会社 総務・地域共創部門 部長）	土橋 章子	○
委 員（一般社団法人仙台市障害者スポーツ協会 専務理事）	中嶋 嘉津子	○
委 員（仙台市中学校体育連盟 会長）	洞口 乃	×

4. 説明に出席した者の職・氏名

文化観光局長	岩城 利宏
文化スポーツ部長	及川 徹
スポーツ振興課長	吉田 勝則
スポーツ振興課 企画係長	伊藤 健文
スポーツ振興課 総括主任	工藤 薫
スポーツ振興課 主事	高畠 詩恵奈

5. 会議の経過

(1) 開 会

(2) 会長挨拶

(3) 議事の内容

進行役：篠崎会長

議事録署名人の指名：尾地委員

篠崎会長

次第に基づきまして、進めてまいりたいと思います。

まず、本日の会議事録へ署名いただく委員につきまして、指名させていただきたいと思いますが、今回は尾地委員にお願いしたいと思います。尾地委員よろしいでしょうか。

尾地委員

わかりました。

篠崎会長

尾地委員に議事録への署名をお願いしたいと思います。

これより議事1に入ります。仙台市スポーツに関する意識調査概要について事務局よりご説明願います。

事務局

議事資料1-1をご覧ください。仙台市スポーツに関する意識調査概要について説明させていただきます。調査の目的でございますけれども、先ほど会長からご説明ございましたように、令和4年に策定されました、仙台市スポーツ推進計画2022-2031におきましては、中間年、令和8年度において必要な見直しを実施するものとしていただいております。こちらにつきましては、計画に掲げております数値目標の達成状況を把握するために、スポーツに関する意識調査、いわゆるアンケートを行うものでございます。2番、調査対象でございます。令和2年度に調査いたしました、前回調査と同様に無作為に抽出してございます、男女3,000名を対象としていただいております。3番、調査方法でございます。こちらにつきましては、調査用紙を郵送にて配布いたしまして、回答はウェブ又は郵送によって回収をさせていただきます。なお、前回調査におきましては、郵送のみの回答でございまして、約半数の方から回答をいただいたところでございます。4番、今後のスケジュールの予定でございます。本審議会にてアンケートの質問の内容をご確認していただきましたのちに、11月に市民意識調査を実施いたします。今年度中に調査結果をとりまとめまして、検討委員会を中心に、計画の改定に向けた作業を行ってまいりたいと考えてございます。なお、第1回の審議会におきまして、検討委員を選出したところでございますけれども、株式会社マイナビフットボールクラブの本棒陽一様からご辞退の申し出がございまして、審議会の書面表決を経ているところでござ

いますが、株式会社仙台89ERSの成田健太郎様に検討委員にご就任いただいておりますので、改めてご報告をさせていただきます。以上でございます。

篠崎会長

ありがとうございました。ただいまの事務局のご説明につきまして、ご質問、ご意見等は、ございますでしょうか。

全委員

異議なし。

篠崎会長

続きまして、事務局より調査票につきましてご説明をお願いいたします。

事務局

議事資料1-2が今回実施する調査票の案となっております。令和7年度の調査票に関しては、前回令和2年度に行った調査結果との比較を行うことも考慮して、前回の調査票をベースに、見直しを加えてございます。8月7日に検討委員会を開催いたしまして、検討委員会の委員の中でのご意見を反映させた形で今回お示ししたものでございます。前回調査と比べて設問数は減らしておりますが、調査票全体として分量が多くなってございまして、なるべく回答者の方の負担を減らすことを考えているところでございます。それでは、議事資料1-4比較表に沿って、仙台市スポーツ推進計画における目標と関連する設問、それから前回調査から変更を加えた箇所を中心にご説明させていただきます。1番、回答者の属性につきましては、家族構成の違いによるスポーツ活動への影響を図るため、一緒にお住まいの方の家族構成、一緒にお住まいの方の最年少の方の年齢に関する設問を追加いたしました。また、設問1から3について、もともと5段階評価の選択式としていたところを、点数を記載いただくような方式に変更をしたところでございます。100点から0点の間で回答する様式になっておりますが、回答者の負担を減らすため、例えば10点満点にするというような修正について、ご検討いただければと思います。2番、スポーツ実施状況等につきましては、設問4の1、4の2についてそれぞれ計画の総合目標、個別目標の週2回以上30分以上の汗をかく運動の実施率に関する設問となっております。また、検討委員会でのご議論を受けまして、設問4の7など、複数回答になるものについて、その中で優先順位を記載いただくような方式で、調査票をお示ししてございます。こちらも、選択肢が多いこともございまして順位まで考えるとなると回答者の方の負担が大きいと考えてございます。順位を外し、複数回答というところを委員の方にご検討いただければと思ってございました。また、設問5の種目について、2ページにまたがり見づらいというようなところもございまして、選択肢の統廃合により1ページにまとめるような形に修正したいと考えてございます。3番、市や地域スポーツ団体等が開催する行事参加につきましては、設問6の1が個別目標の地域団体などが主催するスポーツ行事等への参加

率に関する設問になります。回答者の方の負担を考慮しまして、前回調査の時にございました総合型地域スポーツクラブに係る設問はすべて削除した形になってございます。4番、スポーツ施設につきましては、大筋前回調査と同様のものになってございます。こちらも順位を記載いただくような形でお示ししておりますが、回答者の方の負担を考慮して複数回答に戻したいと考えているところでございます。5番、スポーツ観戦につきましては、設問12の1は個別目標の年1回以上直接スポーツを観戦した市民の方の割合に関する設問になります。計画の目標では、アマチュアスポーツも含んで直接競技場等で観戦した割合となっておりまして、それに合わせて設問についてもアマチュアスポーツを含むような観戦をご回答いただくように修正したところでございます。6番、障害者スポーツにつきましては、設問16が個別目標の障害者スポーツについて、する、みる、ささえる活動に参加した方の割合に関する設問になってございます。令和2年の前回調査においては、それぞれ、する、みる、ささえるの設問を分けておりましたが、重複した活動を行っている方もいらっしゃるもので、設問を統合したところでございます。7番、スポーツボランティア活動につきましては、設問18の1が個別目標のスポーツボランティア活動の実施率に関する設問となっておりまして、お子様の部活動の送迎など普段身近に行っているものについて、スポーツボランティア等を意識していない方も多いと思いますので、それもスポーツボランティアにあたるということを回答者の方に認識していただけるよう、説明文や設問18の2の選択肢の具体例の記載をしたところでございます。最後に8番、スポーツに関する情報、スポーツ振興策、その他について、でございます。検討委員会でのご議論を受けまして、設問20として、普段利用している情報媒体を何う設問を追加しております。また、先のスポーツ庁の調査において、勤務先での運動スポーツを活用した取り組みがスポーツ実施率に大きな影響を与えるというような結果が示されており、本市においても勤務先における取り組みの影響を調査するため、設問25を追加したところでございます。なお、設問26に仙台市のスポーツ振興施策に何を期待しますかとありますが、設問23に運動やスポーツの役割、設問24に仙台市のスポーツ活動が盛んになるために必要なことについての質問があり、設問26はそちら23、24と重複するところがございますので、設問26を削ることについてもご議論いただければと考えてございます。なお、個別目標にございます、小学校5年生の週3回以上のスポーツ実施率や元気はつらつチャレンジカードの達成者数については、本調査とは別に集計を行うため、本調査の質問事項に入っていないところです。繰り返しになりますが、できるだけ回答者の負担を減らすような形で、より多くの方に回答をしていただきたいと思います。そういった視点で、意識調査に関するご議論いただければと思います。説明は以上になります。

篠崎会長

順に皆様の承諾を得ていくという形で進めさせていただきたいと思います。QRコードでもやるということで回答率は間違いなく落ちますから、それを考慮すると回答率を上げていくということは極めて大切な視点かとは思いますが。そういう意味で複雑に回答をさせるところは、できる限り消していくという事務局側の意見というのは正しいのかなと思っておりまして、このあたりどう削っていくかを議論させていただきたいと思います。属性については、資料1-3の令和2年のものに比べて一緒に住んでいる方のうち一番下の年齢をといるところが増えた部分ですが、この属性に関する、意見、聞き方、又は全員ご回答くださいの右側、点数化について議論させていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

小池委員

確認ですが、意識調査対象者は、障害がある人、障害のない人を後でクロスする時に、障害がある人も対象に入ってるんでしょうか。というのは、この推進計画の中には高齢者、障害者のスポーツ推進と、それから女性のビジネスパーソンと対象者を分けているのですが、現在の動向を知ろうとするということであれば、障害の有無でクロスをする時に対象の属性のところで必要なかどうか。又は障害のある人たちは障害のある人たちだけで別枠で調査するということなのか。3,000名で抽出すると、障害者は全国だと多分、10%ぐらいだと思いますが、仙台市だと5%か4.9%ぐらいのところなので、そうすると3,000名から抽出するとそんなに多くの数は出てこないと思いますが。

事務局

無作為抽出ですので、回答者に障害者の方も含まれると思ってございますが、障害者の方かどうかを確認する設問はございません。統計的な集計になると思います。

篠崎会長

委員の質問は、属性で障害者の方がどういう行動パターンをとっているかを、これでは抽出できないんじゃないか、ということですか。

小池委員

それと、6番目のカテゴリーの障害者スポーツの文言が、説明文章のスタイルを見ると、障害のない人が障害者スポーツにどう関わってるか、みたいなものに、なっているので、障害のある人が、する、みる、ささえる、中でも体験するとか、障害のある人はもう、アスリートであればするみたいなことだと思うのですが。全体的には障害がなくて、どうなのかっていう動向を見る設問かなと思った次第です。

事務局

障害者スポーツの設問については、体験するに関しては、体験も含めて自分で行うというようなところ、障害がある方も障害がない方も合わせたような形での設問というイメージでいたところでございます。

篠崎会長

重要な視点かと思いますが、例えば属性のところに入れるとすれば、どのように明記しますか。

小池委員

障害者スポーツの関係者が詳しいと思いますが、手帳を持ってる、持っていないことでも把握できるかも知れないですが、性別と同じで聞く方も気をつかうところですよ。その辺のところも全体的にクリアできればですが、まだなかなかそこまでは、多様性や価値観が共有できているかも含めてということですよ。

事務局

意識調査ではなく、例えば施策の見直し、計画の見直しの中で、障害者スポーツ協会さんをはじめとした関係の方にお話を伺うことも検討したいと考えております。

事務局

障害のある方のお話でしたけれども、やはり障害と言っても、いろいろな障害がございます。3,000人の中に何名入るのか分かりませんので、クロス集計することに、どこまで統計的価値があるかというところもあると思います。健康福祉局の計画や社会参画の中で行うことや障害の種類に応じた活動については、障害者スポーツを所管している部局と相談して対応するという方が、この統計調査的には妥当かなと考えております。関係の方にヒアリングすることで、この施策の評価に活かしていくのがこのスポーツ全体の調査においては、適切であると考えたところです。一方で、この調査自体がダイバーシティに完全に配慮してるかというところではないという気付きも得られましたので、ダイバーシティを進めている本市として、こういった統計調査をどうやっていくのかについて、考えていかなければならない課題だと感じました。

中嶋委員

障害者スポーツ関係ということであれば、この審議会の猪又先生に私どもの協会の顧問を務めていただいておりますけれども、ここの属性の中で障害の有無を問うのは違和感も覚えます。当事者として捉えたときにそう思います。設問もずっと入り込んでいきますと、当事者かどうかというようなことも確認できるような設問の作りにもなっておりますので、その辺りで判断する方がいいのかなと思います。そもそもこの計画の中で障害者スポーツに対する関心度というものはかなりボリュームアップさせていくような取り組みというふうに、捉えておりますので、小池先生のおっしゃることも重要な事かなと思いますけれども、障害当事者に対してちょっと違和感を覚えさせてしまうかなと思います。また、設問の中で、設問5に1年間に行った運動やスポーツというのが出てきますけれども、例えばこの4番目の陸上競技について、障害のある人が陸上競技をやってますと言ったときに、もしかしたら、陸上競技の方に丸をつけ、障害者スポーツの方には丸をつけないような方もいらっしゃると思います。意識調査は、

どれだけスポーツに取り組んだかということですので、これは個人のご判断に委ねて良いのかなと思います。多分いろんな回答の仕方を当事者の方もしてくると予測できます。

篠崎会長

スポーツ実施率がどのレベルにあるのかというのを、問う、知るとというのが一番の目的かと思いますので、細くなりすぎて何が聞きたいのか分からないという状態は避けたいと思います。実際、調査票を解いてみると難しい感じになってきているので、そこをクリアするというのが、今回の審議会で我々が決めなければいけない大切なポイントと考えています。

中嶋委員

障害当事者がどれだけスポーツに取り組んでいるかとか、あるいは関心を持ってるかということは、健康福祉局の障害者の施策推進協議会の中で、パラスポーツへの取り組みをどうしていくかということが掲げられておりますので、連携して深めていっていただけたら良いと思います。

篠崎会長

属性を伺う新しい項目、一緒に住んでる方のうち一番下の子の年齢はというところについては、この聞き方でいいでしょうか。私自身は、23歳以上のところに違和感があって、小さなご家族が増えてきて、夫婦で住んでいる方が、これは何を答えたらいいのか、分かりにくいと感じます。

事務局

当初、一緒に住んでいるお子様のうち一番下の方の年齢を伺う設問でしたが、検討委員会において、お子さんに限らず低年齢の方がいる場合に、運動実施率にどのような影響あるかということも確認できるのではないかとのご意見がございました。一緒に住んでる方についての設問とのクロス集計する形です。確かに、配偶者の方と二人住まいの方にとって、どういう質問なんだろうと思われる方もいると思いますが、基本的にはこの質問でピンとくるような年齢層の方がいるご家族に回答していただきたいと考えているところでございます。

篠崎会長

はい、分かりました。続きまして右側のページの全員ご回答くださいとところの、何点ぐらいになると思いますかということについて、10段階で良いのではないかとのご指摘かと思います。これについていかがでしょう。実は私が100点にしたらいいのではないかと提案させていただいてまして、サンプル図を書くときに、5段階だと5個の点が並び、そこに重なるだけになってしまうので、集まるところがよく見えない。クロスで見たときに、最近100段階で行うので、そうした方がいとお伝えしましたが、確かに80点と82点は何が違うのかと言われた時に、答えにくいと思いますので、10段階でも良いと思います。

尾地委員

私も、実際解いてみましたが、1点台は書かないですね。おっしゃる

意味は分かるし、詳細な分布の方がいいことは分かりますが、実際書く側として100点満点であっても10点刻みで書きます。100点刻みにした理由もよく分かりましたが、100点でのアンケートはあまり見たことがないですね。スマホでも、マーケティングのアンケートが多いのですけれども、大体は10段階だと思うので、それがいいと思います。もう1点、1ページに戻りますけれども、運動やスポーツとはと、2年調査に書いてあって、7年度のところには定義として、二重線で囲ってあります。ここに、レクリエーションスポーツと書かれていますが、私どもの団体では、ニューススポーツという言い方をしています。レクリエーションスポーツの中に、ニューススポーツは含まれていると思いますが、「レクリエーションスポーツ・ニューススポーツ」とか、（ニューススポーツ）とか、並列的に並べていただいた方がピンとくる方の確率が上がるかなと思います。

篠崎会長

ありがとうございます。レクリエーションスポーツの前か何かにニューススポーツと加えることは、特に問題ないと思いますけれどもいかがでしょうか。

小池委員

そのところであれば、この調査での運動やスポーツは、とあって、設問4の1にもスポーツの定義がされていますが、シンクロしていないですね。同じ文章で良いと思いますが、意図的に書いているのか。

事務局

意図的にずらして、設問4の1、4の2に繰り返し同じ※印で書かせていただいています。運動やスポーツと言われると、どうしても競技スポーツが頭に思い浮かんで来て、こちらが意図する運動、スポーツの定義よりも、狭い形で皆さん受け取ってしまうところがございますので、そういったところがないように繰り返し入れています。四角囲みの文言と設問4の1では、自宅でやったもの、オンラインを介したものも含むということも足して、回答の際、意識していただけるよう文言を修正してございました。

篠崎会長

今のお話は、定義がずれると、回答者が困るんじゃないか、ということかとは思いましたが、定義は一つと思いますが、ここはいかがでしょうか。

事務局

定義というより、ここでのイメージというか、運動やスポーツとはこういうものなんですという表現です。どちらかというと定義に近いところは四角囲みのところとあって、※印のところは幅広く含んでいますというような、より注釈的なものと考えてございました。

小池委員

四角囲みのところも十分にワイドに捉えるような表現になってると思い

ます。両方とも、運動やスポーツとは、運動やスポーツとは、となっていて、運動やスポーツについて、後ろの文章で説明してるということなので、どちらもかなりスポーツを競技スポーツだというふうに捉えるようには、思えないような文言になっていると、私は解釈します。それから、先ほどのニュースポーツもどちらかというとレクリエーションスポーツよりはニュースポーツの方が一般の人たちも耳に馴染みがあると思っていて、ニュースポーツは、一般の人にも浸透してるという印象を持っています。

篠崎会長

小池委員のご指摘について、前半の定義のところについては、とは、とは、ときているのはおっしゃるとおりですので、確かにそこは体裁をどちらかに合わせた方がいいのではないかなと思います。例えば、注釈らしく、こういうものが多く含まれるという形で書き加えるのであれば、問題ないかとは思いますが、少し表現方法の問題があると感じました。

事務局

いただいたご意見を踏まえまして、検討いたします。

事務局

四角囲みと設問のところですが、アンケートをすると、どんどん回答を進めたくなくなると思うので、四角囲みの設問を読み飛ばされる可能性もあると考えたので、設問4の1、4の2の下にも入れたところです。読み飛ばされることも前提に、どういう表現で統一するのが良いかもう一回検討したいと思います。

猪又委員

設問4の1、4の2、4の3を見ると、※印の中身の文章は全部同じですか。

事務局

※印の中身は全部同じです。

猪又委員

同じことが書いてあっても、人によっては丁寧に読んで、また同じことが書いてあると思われる。ここは、工夫できると思いますがいかがですか。

事務局

先ほどいただいたお話も含めて、検討いたします。

篠崎会長

運動やスポーツの表現について、確かに同じ質問を繰り返していると感じます。定義のところは、こちらで検討させていただきまして、それ以外の質問項目について、設問4の7の順位付けについてはいかがでしょうか。

尾地委員

私も解いてみましたが、最初に丸をつけて、そこから順位を考えました。そうしないと順位がすべて頭の中には浮かばない。順位も1位、2位、3位がほぼほぼ僅差なので、無理やり順位をつけているのが、実感としてありました。アンケートを答える側としては、なかなかこの順位付けは酷な

ので、丸をつけるだけではだめかなと思いながら回答をしていました。集計で順位を分析したい意図も分かるので、もしやるのであれば、この順位の表記は上に入れて、順位を付けるんだというのを意識させたうえで、選択肢を与えた方が良いでしょう。最初に丸をつけると、二度手間になるので、順位は上の方に入れていただきたいと思います。ただ基本的に順位はなくて、丸を3つなら3つ、つけてくださいでいいのかなと思ったところです。

篠崎会長

事務局としても、この順位は外したほうがいいというご意見かと思えます。例えば、この問題に限って言うと、習慣化するために必要とすると思われることは、どのようなことですかとありますが、これ自体が結構難しい問題なので、順位付けによってやめる人が生まれるのは避けたいとも思えます。3つ順位を選ぶことでどういう推計処理をするのかも少し分かりづらいので、検討委員会で広げたことは、すごく大事なことなんですけれども、実際解いてみて、ハードルになりそうであれば、順位付けについては、必要なところだけ残して、それ以外は外すのがいいと思いますけれども、いかがでしょうか。

弓田副会長

順位付けについては、検討委員会で私から提案させていただいたのですが、すべての複数回答を順位づけにするイメージではなかったです。今お話があったように、順位づけがしやすいもの、しにくいものがあると思います。例えば、設問9の公共スポーツ施設に望むことは何ですかというのは要望で、行政が積極的に行っていきけるものについては、最初複数回答であてはまるものをすべて選んでくださいとして、上記の中で最も希望されることは何ですかと一つだけ聞くことによって、こちらがまずどこから手をつけないといけないかが分かりやすくなりますし、回答する側も順位づけしやすい。それ以外については、複数回答で問題ないと考えます。あと気づいたところ、属性ですけど、一緒に住んでいる方の一番下の方の年齢というのは、全員の方が回答必須の項目になるのでしょうか。あるいは、例えば上記で一人暮らしの方は飛ばせる質問になりますか。それによって該当なしという選択肢も必要かなと思いましたので。

事務局

属性については、その一つ前の質問の中で主に、お子さん、孫、ひ孫とお答えになった方だけ回答していただくことも考えたところでしたが、どこまで射程にするかというところもあって、誘導が複雑になると回答者の方が、自分が回答するものかが分からないところもございますので、皆さん全員の回答という形にしたところがございます。弓田副会長のご指摘は、確かに一人暮らしの方に対しては、該当なしの選択肢も必要なかと思えますので、検討させていただきます。

篠崎会長

まさにここが気になりまして、出てきたものがお子さんのものなのか、

配偶者のものなのか、親の問題なのかが全く区別できないと、何を聞いているのか分からなくなってしまう。質問が一個余分にあるという印象も持たれてしまうので、設問の書き方を変えるか、回答部分を増やして、その部分をあぶりだせるようにしておくか、少し工夫をする必要があると感じました。これも検討させていただきます。弓田副会長からお話いただいた選択肢については、順位づけは、設問9以外は外す。設問9は、複数回答にして一番必要と思われるところには二重丸とか、できる限り簡単な、回答率を高めるような工夫に変えていくということで、いいと思いますけれども、いかがでしょうか。

土橋委員

設問9の公共スポーツ施設に望むことは何ですかについては、前回の調査でも同じように3つまで選択肢を選んでください、となっていると思いますが、その中でどんぐりの背比べになったのか、それとも歴然と差がついたものか、前回の結果はどうだったのでしょうか。もし、明らかに3つ選んで差がつくのであれば、あえて1位、2位、3位を選んでももらわなくてもいいのかなと思いました。負担を減らす観点でもそのように思ったのでいかがでしょうか。

事務局

おっしゃるとおり、複数回答の中で多くの方が選択肢を選んだところの順位づけ、優先割合があるとは考えています。

土橋委員

回答を楽にすることが一つと、施策に確実に活かしていくということが一つだと思いますので、結果が出ているのであれば、それを前回のものを変える必要はあまりなくて、三つ巴になって次の施策を決めるときに困るよっていうのであればメリハリをつけた方が良いかなと思いました。

事務局

前回調査については、1位、2位、3位は、25%から30%、5%の間に集中して、4位が24%となっております。利用手続き、料金の支払い方法等の簡略化が1位で30%、初心者向けのスポーツ教室等の充実が26.9%。利用時間帯拡大が25.8%。施設数の増加が24%。5位、6位は20%台でして、5位がスポーツ用具や施設整備の充実、6位が利用案内など広報の充実です。特に1位、2位、3位は26から30の間で4%ぐらいの差にしかありませんが、これをどう見るかというところがあります。

土橋委員

分かりました。市として注力していくべき施策を一つ決めるためと。多分、1位をとると、次回調査するときにやったのかが問われると思いますので、それをあえてとりに行くのか、それとも拮抗したので、あとは市の予算などを勘案して、決めましたっていう形にするのかだと思います。1位をとれば、なぜやらなかったんですかという説明が次の調査の時までに必要になると思いました。

事務局

まさに今いただいたお話のとおりでございまして、同じようなお考えを市民の方々がお持ちだということであれば、あえて、一番重要なものをピックアップするのではなく、何項目か望むものがあって、どれかに注力していきたいというところをさまざま検討できるといいと考えたところ です。

篠崎会長

このアンケートの結果が直接政策に反映されるというのではなく、あくまでもピックアップされた意見の中で重要視されているものがどれかを知ることが重要だという意味で捉えてると理解をしております。もし施策に反映させるのであれば、統計的な処理は十分にされるべきだとは思いますが、順位にどこまで意味があるのかというところを、今検討していただいていると思います。土橋委員、弓田副会長にもお話いただきましたけれども、公共施設についてはある程度、今後の市の財政という意味でも、順位が必要ではないかというご意見で、このまま進めたいということであれば、そこは一番必要なところ、それ以外っていうところで3つつけておくのはいいのかなと考えました。では、少し進めさせていただきたいと思いますが、設問5を1ページにまとめることが事務局より提案されましたが、これについてご意見ないということでしょうか。

全委員

異議なし。

篠崎会長

市や地域のスポーツ団体が開催するスポーツ、レクリエーション行事については、設問6の3の順位のところを外し、複数回答に戻すことにより しょうか。

全委員

異議なし。

篠崎会長

スポーツ施設については、設問9のみを一つ二重囲みにして、それ以外 は元に戻す。複数回答を3つまで選択する前回調査のやり方に戻すという ところで、よろしいでしょうか。

全委員

異議なし。

篠崎会長

スポーツ観戦については、設問10、11は、100点満点のところを10点満点 に修正する。設問12の1は、事務局よりご説明ありましたけれども、アマ チュアスポーツを入れたところが修正点です。その他、順位は外すこと で いかげんでしょうか。

全委員

異議なし。

篠崎会長

障害者スポーツについては、いかがでしょうか。私は、設問15の1の障害者スポーツについて、あなたが知っているものを教えてくださいの選択肢に、知らないがないところが気になります。細かい話ですが、わからないと知らないは違うと思います。知る、知らないで統一して、選択肢38は、知らないとした方がいいと思いました。

猪又委員

障害者スポーツの設問17に、する、みる、ささえる活動とありますが、スポーツ推進計画では、する、みる、ささえる、ひろがるとあって、4本柱を計画策定の趣旨に置いているのであれば、このアンケートについてもあって良いのではないかと。ひろがるの部分はおそらく、あなたは知ってるものを教えてくださいとか、そういう部分になるのかと思いますけれども、ひろがるの部分は、障害者スポーツにとって、ものすごく重要なファクターだと思うので、ぜひこの点についてどのようにお考えか伺います。

事務局

計画の個別目標として、障害者スポーツについて、する、みる、ささえるのいずれかの活動を行う15歳以上の市民の割合を令和8年に20%以上にする事としておりますので、設問はその割合を把握するものとしています。ひろがる部分については、する、みる、ささえる活動の中で、繋がっていく、ひろがっていくところもあるかと思いますが、意識調査での確認とは違った形で、状況確認や市の施策で行うものと考えてございます。

事務局

1点補足でございます。ひろがる部分については、大規模スポーツイベントの誘致でひろがっていく部分と機運の醸成でひろがっていく部分があって、ひろがるという言葉は使っておりませんが、設問15の1の障害者スポーツについて、あなたが知っているものを教えてくださいという設問で、醸成というか、確認させていただくこともひろがる部分にあてはまるものと考えているところでございます。

猪又委員

ご説明は分かりました。ただスポーツ推進計画2022-2031に基づく今回のスポーツに関する意識調査がある訳ですから、この4つの柱を計画策定の中に盛り込まれているのであれば、そことの整合性がないといけなと感じます。ひろがるという言葉はないけれども、設問15の1のところをそこを網羅しているというのであれば、少し工夫が必要だと思います。

篠崎会長

設問15に少しその文言を入れて、この中で3つをというような形で書かせていただくか、設問17の4に入れるかということをごちうで考えさせていただきたいと思います。

小池委員

明解に思ってる訳ではないのですが、ラグビーについて、車いすラグビ

一の方が分かりやすいと思いましたが、ラグビーは車いすラグビー以外にありましたか。テニスも、車いすテニス以外になれば、イメージしやすい方が良いでしょう。障害者スポーツに関わったことのない人が答えるとすれば、パラスポーツなど一般的になってるものの方が良いでしょう。

事務局

パラリンピック種目はそうですが、デフリンピック種目が入ってくるとまた話が変わって、デフラグビー、デフバレーボールなどがあります。パラ種目は、確かに馴染みはいいですが、デフの方もいらっしゃると思うので、やはりそういう限定はしない方が良いでしょうという考えです。

小池委員

私もこういう立場にしながら、最近になって、6障害すべてにサッカーがあることを知りましたので、質問したところです。

事務局

基本的には、書くと書ききれないことになると思いますので、前回調査に合わせた選択肢とさせていただいており、その中でイメージいただきたいと考えてございました。

小池委員

選択肢34に卓球バレーがあって、16に卓球がある。ブラインド卓球もあるし、両サイド囲ってある卓球もある。

中嶋委員

卓球バレーと卓球と違いますが、卓球も広いですね。視覚障害の方、聴覚障害の方、身体障害の方、それぞれありますし、バスケットボールも車いすバスケットボールや知的障害の方のバスケットボールもありますので、私は、競技名の表記でよいと思っています。

篠崎会長

前回調査と選択肢は変わっていないと思いますので、この競技名でいいと思いますけれども、もし明確な定義がはっきりしていて、増やすべきという専門家の皆様のご意見があるのであれば、そう変えるべきだと思いますが、中嶋委員はこのままで良いという意見ですが、いかがでしょう。

中嶋委員

若干の整理は、事務局さんの方でやっていただいて。

篠崎会長

はい、ありがとうございました。この項目につきましてはよろしいでしょうか。

全委員

異議なし。

篠崎会長

スポーツボランティア活動については、設問18の4の順位を外す以外の点でなければ、ここはよろしいでしょうか。

全委員

異議なし。

篠崎会長

スポーツに関する情報については、設問20、22の順位を外す以外の点でいかがでしょうか。先ほど猪又委員にご指摘いただいた設問21は、少し検討が必要かなと感じています。個人的に気になっているのは、設問21のスポーツをする、みる、ささえる活動をしようとする際と質問されたときに、私だったら、そんなこと意識したことがないと思うので、施策の方向として正しいとは思いますが、アンケートを受け取る市民の立場からしますと、回答しにくいと感じますし、これで何をあぶり出すのかが見えない。

土橋委員

設問21のスポーツをする、みる、ささえる活動をしようとする際、情報をどこで得ていますかという設問は、大きく聞いている割に、選択肢の1番が市のSNSと書いてあります。スポーツ新聞とか、何か大きなものがあって、だんだん小さくなるのではないですか。市のSNSが小さいという訳ではないですが、普通のSNSと市のSNSというのは、対に並んでいて、スポーツ情報ナビとかウェブサイトも、大と小の関係で、重複していると思いました。私も、この質問で何を聞いて、何をしたいこうとしているのかお聞きしたいかなと思いました。

篠崎会長

ここは少し検討が必要かなと感じたところです。回答する順番も含めて、修正させていただきたいなと思いますがいかがでしょうか。

事務局

この設問のイメージとしては、身近なところでご自身がスポーツに関する活動をするにあたって、どんな施設があるのか、どんなイベントがあるのかを確認するための情報源を聞きたいという趣旨でした。令和2年度には、スポーツに関する情報をどこで得ていますかという設問でしたが、ご自身により近いところをイメージしていただくために、する、みる、ささえる活動をしようとする際という言葉を入れたところです。回答しにくい設問とならないように、検討させていただきたいと思います。

篠崎会長

スポーツ振興策につきましては、事務局から他との関連が分かりにくいということで、設問26を削除するという説明がありましたが、順位を外す以外の点でいかがでしょうか。

土橋委員

前回調査の回答率と、今回調査はどれぐらいを目指しているか教えてください。

事務局

前回調査の回答率は50.9%で、3,000人の方にお送りし、1,526人から回答があったところです。今回調査についても、同程度の回答率が欲しいと考えております。

篠崎会長

前回調査では、設問項目に、全員ご回答くださいと、細かくついていましたが、設問23、24についていないので、他の設問も含めて、すべてつけていく必要があると思います。土橋委員にご指摘いただいた回答率についてですが、前は50%とかなりいい回答率で、市民の方が協力されてるんだということがよく伝わります。QRコードで行うとすると、比較的複雑なアンケートですから、それによって回答率が落ちてしまうことを避けたかったので、今回の議論でだいぶ簡略化して良い方向につながるというとは考えています。

事務局

回答の仕方としては、ウェブ又紙での回答ということになるので、利便性を高めているという意味で回答しやすくなっていると思っていました。

篠崎会長

大学で行っているアンケートは、QRコードやウェブにするとガクッと回答率が落ちています。

事務局

紙とウェブ併用でも大分下がるでしょうか。スマホやパソコンが使える方もいらっしゃると思いますので、併用にすると上がると期待しているところです。

事務局

私も、紙でアンケートを回答しましたが、20分近くかかりました。スマホで回答しますと、いつまで続くんだろう、最後が見えない、やってみると延々と続くから、途中でやめようっていう人もいるかも知れないという意味では、会長がおっしゃる傾向になる可能性もあると思っております。

篠崎会長

何パーセント終了などを入れて、回答率を高めていく工夫が必要だと思います。

弓田副会長

紙の場合は、自分で分量を確認できて、所要時間は人によっても違うのでなくていいと思いますが、QRの場合には、進捗状況が見えるように、何パーセントとか何ページの何ページ目にいるとか、画面上に明記した方が親切という気がします。

尾地委員

通常のアンケートは、何問設問がありますとあって、そのうえで何パーセントの進捗とあるので、ページはちょっと分かりづらいと思います。

佐藤委員

年齢の高いものにとっては、紙の設問でもかなり時間がかかると思います。前の方はスラスラと行くかもしれませんが、後ろの方に行くと、くたびれてしまって、適当になる可能性もあると思います。特に答えの問題が、そこから選べと言われても、できるかどうか不安でした。私も実際やつ

てみて、目が疲れてしまいましたので、やってみないと分からない部分があると思いました。

篠崎会長

アンケートは、全体で50%ぐらい返ってきて、回答の穴があると空いたところが使えない可能性もあります。本日いただいた意見を含めて、再検討させていただいて、委員の皆様方に、メール等を含めて、お知らせするというだけでもよろしいでしょうか。

全委員

異議なし。

尾地委員

最後に一つ、設問5についての意見です。運動やスポーツの種類に、レクリエーションスポーツとあります。レクリエーションにニュースポーツを併記いただきたいことと、ニュースポーツの例示として、ボッチャを入れていただきたい。令和2年と7年ではボッチャの認識が随分変わっているので、入れることでチェックをされる方もいると思いますので。

篠崎会長

ニュースポーツの併記と、ボッチャを入れるところについては、ここに加えるということでもよろしいでしょうか。

全委員

異議なし。

篠崎会長

それでは、そのようにさせていただきたいと思います。

事務局

ご議論ございました複数選択で順位付けをするのは、設問9のところだけで、特にというものを一つ、複数丸で選んで、例えば二重丸にする。それ以外は順位を外すということかと思えます。そのうえで、お聞きしますが、市民の方に運動、スポーツに親しんでいただくために、何がハードル、障壁となって、そのような生活様式になっていないのか、行動変容が一番大事だと思いますが、その原因を知りたいという意味で言えば、設問4の1、4の9についても、ある程度分かったら、そこに対しての施策を考えることもできる思います。その際、特にとして二重丸をつけたものと、それ以外の丸の重みについて、どの程度意識されて、回答されたかも考える必要があると思っています。アンケート集計や施策を考えていく際、どの程度、特にとしての重みを考えるかということが、難しい部分もありまして、改めて、会長、副会長にもご相談させていただきたいと思います。

篠崎会長

今回調査では、あくまでも参考になる記述総計を出すのが目的だと思いますので、推計処理をするところまでいけるかどうかについては、また相談させていただきたいと思います。よろしく願いいたします。それ以外ご意見なければ、意識調査に関する部分については、ご了承いただいたと

いうことで、修正部分につきましては、委員の皆様には修正したというところが分かるように連絡させていただくということで、よろしいでしょうか。

事務局

市民意識調査の完成版については、委員の皆様には共有させていただきたいと思います。

篠崎会長

修正の仕方につきましては、私どもの方でさせていただくというところで決めさせていただきたいと思います。ありがとうございました。では以上、本日の議事となっておりますけれども、この他、何かございませんでしょうか。

全委員

異議なし。

篠崎会長

ありがとうございます。それでは事務局に進行をお返しいたします。

事務局

以上をもちまして、本日の審議会を閉会いたします。長時間にわたりご審議を賜り、ありがとうございました。

(4) 閉 会